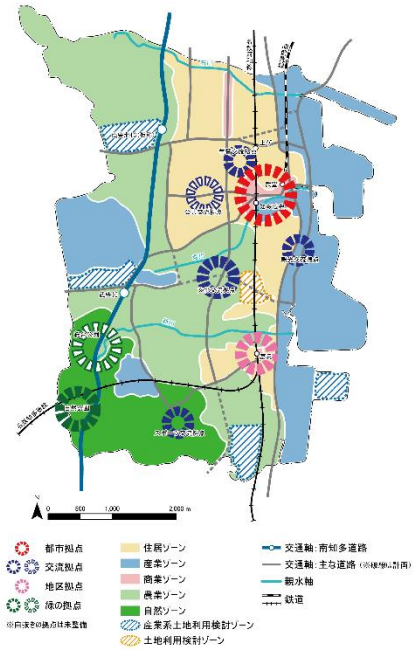
資料　3

名鉄知多武豊駅西グランドデザインの策定方針

1．駅西グランドデザインの策定目的

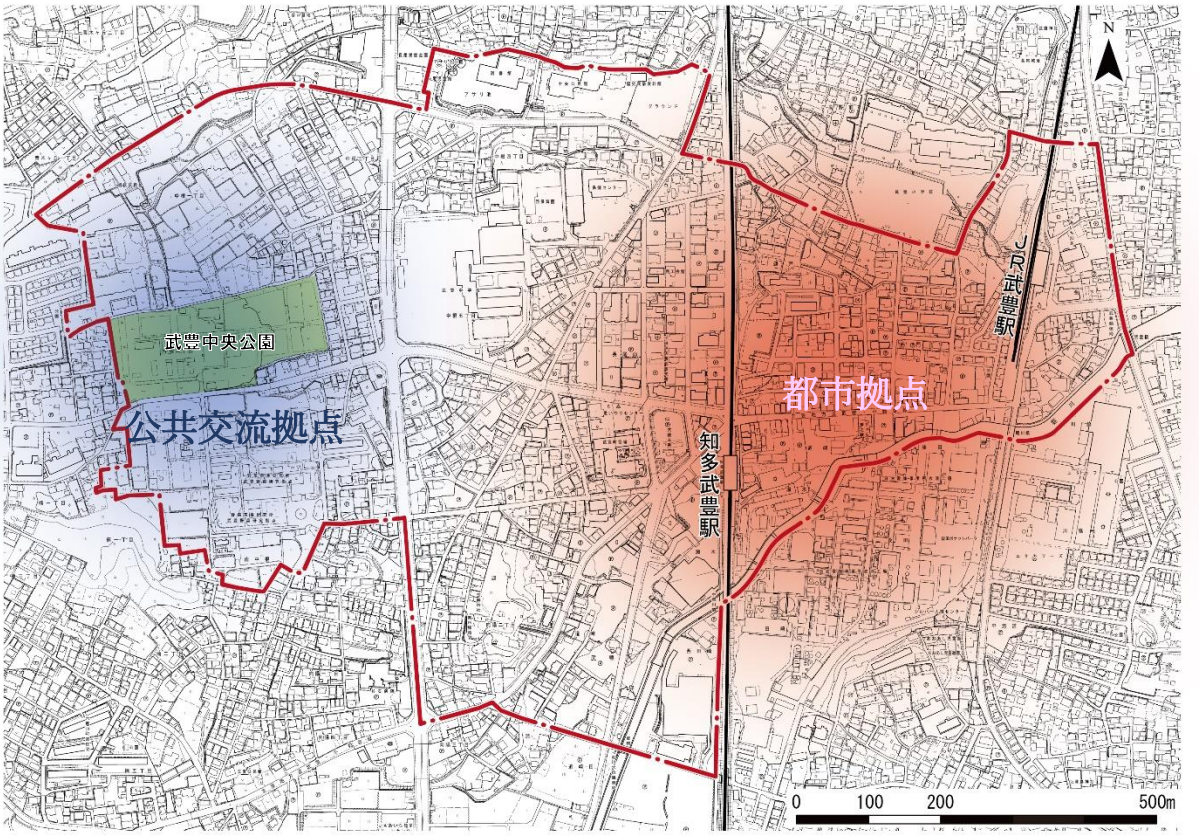


本町は、人口減少や高齢化の進行、防災減災対策の重要性の高まり等、社会潮流やまちを取り巻く社会経済情勢の大きな変化に対応するため、令和3年度を始期とする第6次武豊町総合計画および都市計画マスタープランを策定し、名鉄知多武豊駅周辺等を「都市拠点」、武豊中央公園周辺を「公共交流拠点」と位置づけています。

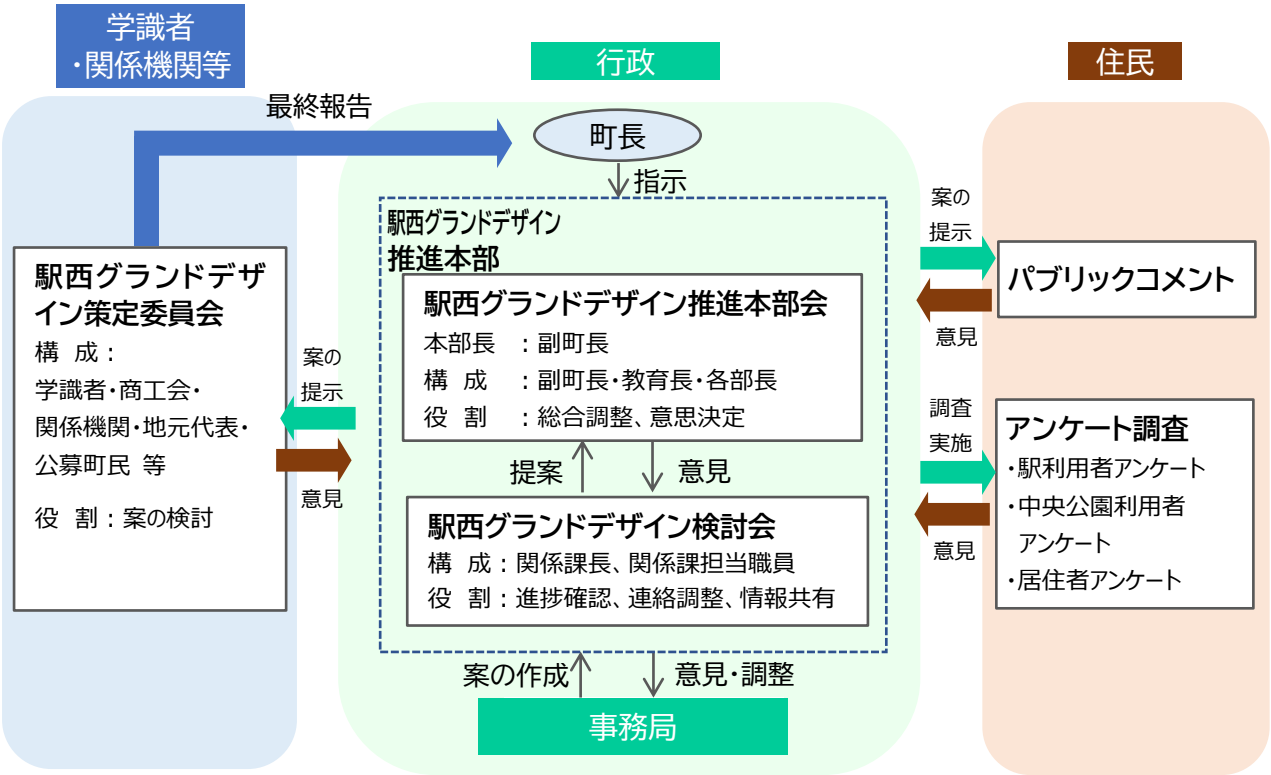
この「都市拠点」と「公共交流拠点」の具体的なまちづくりの方向性を明らかにするため、社会経済情勢の変化や地域の現状と課題、住民ニーズ等を踏まえながら、概ね20年先を見据えた長期ビジョン（＝駅西グランドデザイン）の策定を行います。

駅西グランドデザインでは、知多武豊駅西エリア（検討区域は下図参照）において住民等の共感を得られる将来像を描き、目指すべきまちの姿/空間像と実現に向けた取組みを明らかにするとともに、その取組みを住民等とともに戦略的に展開していくためのロードマップ等も明らかにします。

2．検討区域（案）



3．策定体制（案）



4．策定スケジュール（案）

作業内容	R3 年度			R4 年度			
	6～9 月	10～12 月	1～3 月	4～6 月	7～9 月	10～12 月	1～3 月
1. 検討区域の設定							
2. 現況及び課題の整理							
(1)生い立ち・特徴の整理							
(2)現状分析							
(3)町民等の意向把握 ・地域住民アンケート ・駅利用者アンケート ・中央公園利用者アンケート							
(4)その他調査 ・交差点交通量調査 ・駅乗降客調査 ・駅利用状況調査							
(5)課題の整理							
3. 目指すべき将来像							
4. まちづくり戦略と取組み							
5. 実現に向けたロードマップ							
6. 事業手法と概算事業費等							
7. 計画書とりまとめ/印刷製本						パブコメ	
策定委員会	9/7 □		2/7 □		□	□	□

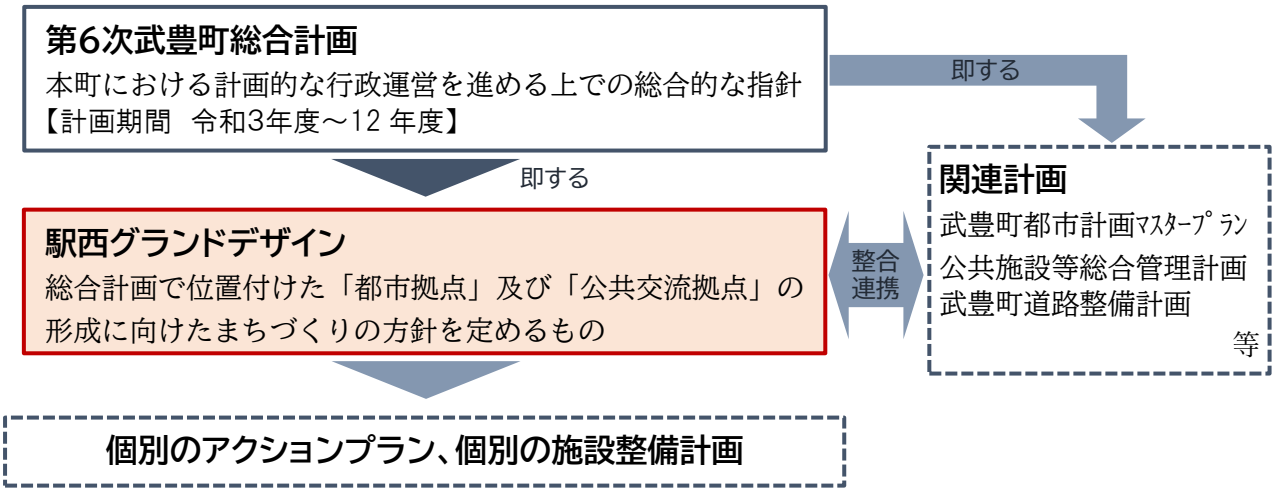
5．駅西グランドデザインの構成（案）

駅西グランドデザインは、検討区域におけるアンケート調査や交通状況調査等を実施し、現状分析を行った上で、駅西エリアの将来像（目標、土地利用構想）やまちづくり戦略（具体的な方針、取組）を定めることとし、以下のような構成を基本に検討していきます。

駅西グランドデザイン計画書構成（案）	
第1章 グランドデザインとは	●策定目的 ●検討区域
第2章 駅西エリアで今何が起きているの？	●生い立ち･特徴の整理 ●現状分析(アンケート、交通状況調査等の結果を活用) ●課題の整理
第3章 駅西エリアの将来像	●駅西エリアの目標 ●土地利用構想
第4章 駅西エリアのまちづくり戦略	●具体的な方針、取組
第5章 計画の実現に向けて	●ロードマップ ●推進体制

6．駅西グランドデザインの位置づけ

駅西グランドデザインは総合計画に位置付けた「都市拠点」及び「公共交流拠点」の形成に向けた具体的なまちづくりの方針を関連計画と整合・連携しながら定めるものです。これに基づき、今後、具体的なアクションプランや整備計画を検討していきます。



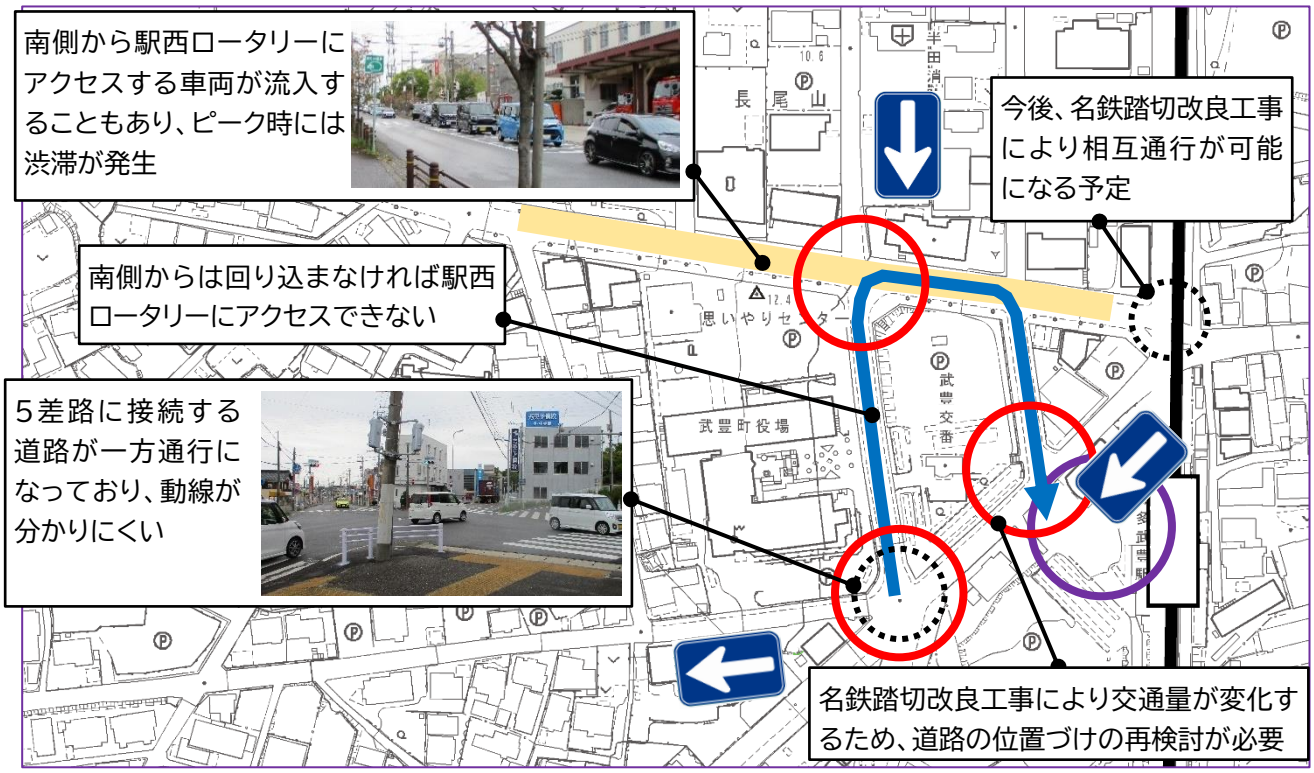
7．駅西グランドデザイン検討の視点

駅西グランドデザインの検討にあたっては、以下のような視点に重点を置きつつ進めます。

（１）自動車交通の利便性向上に向けた名鉄知多武豊駅西側の交通基盤の改善

○武豊港線（みゆき通り～武豊中央公園）への円滑な接続を踏まえ、自動車交通の利便性向上に向け、**名鉄知多武豊駅西側の交通基盤の改善が必要**です。また、住民や駅利用者の利便性や安全性を高める**交通結節機能の強化（駅西ロータリーの整備改善や駐輪場・駐車場等の効率的な配置）**を図ることが必要です。

知多武豊駅西側の状況



交差点交通量調査予定箇所　　駅乗降客調査・駅利用状況調査予定箇所

（２）駅前にふさわしいにぎわい創出と生活利便性の向上

○名鉄知多武豊駅前は、駅前というにぎわいを創出できるエリアの立地条件・ポテンシャルが十分に活かされておらず、**町全体のイメージを象徴する場（玄関口）にふさわしいにぎわい創出と生活利便性の向上**が必要です。

○新型コロナウイルス感染拡大を契機として密にならない屋外公共空間を利活用するニーズの高まりもあって、官民のパブリック空間をウォーカブルな人中心の空間へ転換していく動きが全国的に広まりつつあり、こうしたまちづくりの動きに対応した**歩くことが楽しくなるウォーカブルなまちづくりを進めることが必要**です。

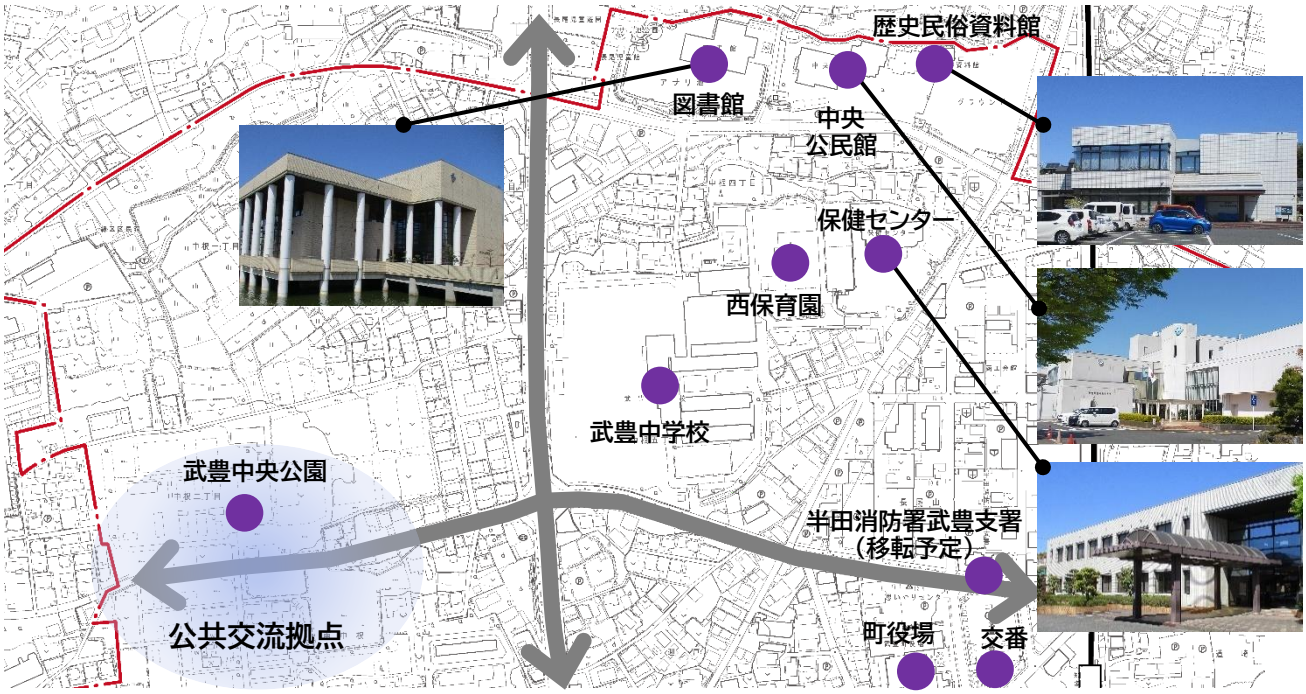
（3）多様な世代の定住促進

○駅周辺の便利さや住宅地としての高いポテンシャルを活かし、**若者世代を中心とした多様な世代の定住促進**を図ることが必要です。

○また、居住者の高齢化が今後課題となることが想定されるため、**高低差がある地形を踏まえながら、バリアフリーに対応する等、高齢者等にとっても“住みよい”まちづくり**を進めることが必要です。

（4）公共施設のあり方（住民の生活利便性の確保や交流を促す公共交流拠点の形成）

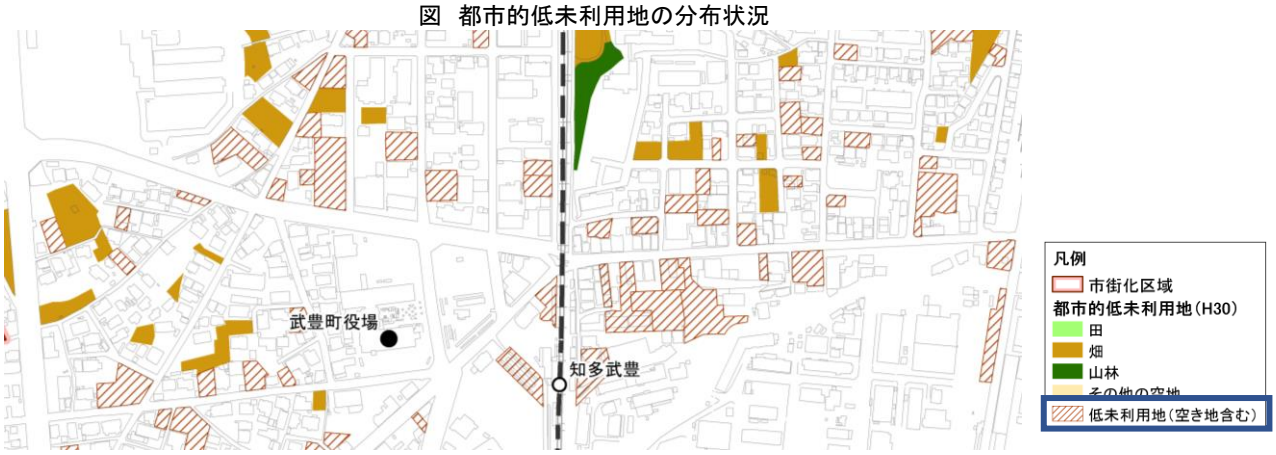
○老朽化が進行する公共施設について、住民の生活利便性の確保に向けて、庁舎整備や公共施設再配置を視野に入れつつ、総合計画に位置づけられた**公共交流拠点への集約**を検討し、**施設相互の相乗効果による公共施設のさらなる利用増進**を図ることが必要です。



（5）点在する低未利用地及び空き地の有効活用

○空き地等が解消され商業施設や住宅が増えると活気が生まれ、町のイメージも向上していくことが期待されることから、**点在する低未利用地や空き地を有効に活用**していくことが必要です。

図　都市的低未利用地の分布状況



（6）既存ストックを活かした緑豊かな市街地の形成

民有地が緑化された住宅地

○“住みよいから、住みたい”と多くの人が思える魅力ある市街地の形成には、単に都市基盤の整備や宅地供給を進めるのではなく、**いかに付加価値のある街を形成するかがポイント**です。

○選ばれるまちづくりに向けて、身近な公園等の必要な都市基盤の整備を進めるとともに、**これまで整備してきた道路等の既存ストックを活用しながら、駅西エリアで既に設置された植栽等を活かした、緑豊かで良好な景観を有する市街地を形成**することが必要です。

○また、緑豊かな住環境を地域資源として捉えつつ、**「ゼロカーボンシティ宣言」に基づいたカーボンニュートラルにもつながる良好な住環境の確保**を図ることが必要です。